

教育会館ふれあいコンサート

2026年度出演者が決定しました

身近で聴く生演奏の魅力

第103回(5月31日)



加束 徹
(バリトン)

「素晴らしいです。言葉になりません。一曲ごとに曲の世界に引き込まれていきました。マリンバが大好きになりました」「武本さん(ピアノ)との共演も息がぴったり、ラブソディ・イン・ブルーはしびれました。後半のピアノソラも本当に良かった!!プログラムが好きな曲のオンパレードで言うことなし。また聴きたい」。これは、9月に開催した塚越慎子マリンバリサイタルの感想です。

演奏家たちからは、「この会場は近くで熱心に聴き楽しんでいる観客の様子伝わってくるのでやりがいがあり好きです」「お客様があたたかく、素晴らしい音楽空間で幸せでした」との声をいただいています。マナーの良さや曲が終わり感動したときの大きな拍手は演奏家に伝わりより素晴らしい演奏を生みます。

生演奏は、演奏家と観客が空間や時間を共有するものであり、観客の反応に応じて演奏が変化するなどして演奏家と観客との共感が生まれます。会場が盛り上がり観客と一体となった時には、みんなが生き生きとした顔となり楽しんでいる様子が広がります。教育会館ふれあいコンサートの特徴は、生演奏を近くで聴き、演奏家の豊かな人間性をも感じることができることです。

ふれあいコンサートを企画するにあたって、どの演奏者に依頼するかは大切な課題です。依頼する要件の第一は、演奏家が実力と魅力を備えているかです。聴衆の状況にも配慮し対応できる感性を備えているかも重要です。そのため、今まで開催したふれあいコンサートの感想や関係者の意見を聞いたり、テレビやYouTubeなどで聴いたりして2026年度の出演者を依頼しました。

その結果、2026年度も魅力と実力を備えた演奏家に協力をいただきました。第1回はバリトンの美しい歌声。第2回は名器ストラディバリウスの豊かな響き。第3回は二胡とケーナの心に響く音色。第4回は歌うフルート&トランペットです。ぜひ、会員となって生演奏の魅力を楽しんでいただきたいと思います。さらに、家族や友だちなどにもお誘いいただければ幸いです。

第104回(7月26日)



高木凜々子
(ヴァイオリン)

第105回(9月27日)



野沢香苗
(二胡)



菱本幸二
(ケーナ)

第106回(11月29日)



荻原貴子
(フルート)



神代 修
(トランペット)